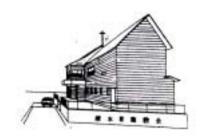
≪今朝の聖書から ≫ 6章 27 節ででも、イエス様は "人の子"という言葉を、"神から使わされた一人子"という 意味で用いておられ、ご自身がキリストであるということを、 はっきりと"証し"しておられたことが判ります。 い"という言葉があります。私たちは、一生懸命に働くよ 造られています。イエス様でなくても、誰もが、働くことは良 いこと、と思うでしょうし、働きたいとも思っているでしょう。 けれども問題は、何を実現するために私たちは働くのでしょう か。また働いてきたのでしょうか。随分難しい問題のように思 えます。神様が指し示してくださっている恵みに向かって働 く、というのが私たちの目的なのでしょうが、毎日のしがらみ は、このことを、すごく困難にしていることにも気付きます。 次から次へと悩みはやってきますし、挫折も誘惑もやってきま す。アブラハム、ヤコブの歴史を見ても、"神様の祝福が貫か れている"ことが判るのですが、それは、さまざまな、雑音や 人生を悩ませる出来事の只中でのことであることも判ります。 27 節を見ますと、朽ちない食物を"命のパン"として、キリ ストに委ねられたのが神様ですと言っていることが判ります。 次いで、イエス様は質問を受けられます。神の業に励むとは何 をすることを言うのですか、と聞きます。 として第一に与えられている"という単刀直入な答えがなされ ています。キリストを信じることが、神のなさる仕事であると いうことから説明が続きます (29節)。 信じるための働きでは なく、信ずることがもたらす働きを言っておられるのです。私 たちもそうですが、"かつてマナをもって、人々が養われたよ うな、あんな印が欲しいものです"と質問を続けます(31節)。 33節には、"モーゼがマナを示して私たちを養われたような を下さい、とイエス様に迫ります(33~34節)。 ンをあなたがたは、目の前に人の子として見ている" 様は答えられます(35節)。スカルの井戸端で、サマリアの女 性と交わされた同じ会話が、ここでもなされています。決して かわくことがないとありますが、主を知らない人々が、よく知 り、恐れている "死の持っている渇き" また "むなしさの持っ ている飢え"を克服できる、信じる者だけが努力出来る働きが ある、これが"朽ちない食物のために働く(27節)"説明にな っています。パウロはこのことを御霊の実として"ガラテヤ書" で、"滅びにたどり着く営み"に対して説明しています。私た ちの働きも、主に支えられたものであることを祈りましょう。

週報

2007年 11月 18日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。 使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校 毎日曜日 午前 9:00 礼拝式 毎日曜日 午前 10:30 (聖餐式 第一日曜日) 夕礼拝式 毎日曜日 午後 7:00 エステルの会 午前 10:30 毎水曜日 午後 7:00 http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26 **2054-345-4070** E-Mail grace@big.jp 牧師 村上定幸